

# 嬉野小校区地域コミュニティ運営協議会

## 事務局だより

## 第25号

発行日・平成27年7月29日



平成27年7月22日(水)環境整備部会の、ゴミ不法投棄看板設置場所における、実態調査を行いました。



今回実態調査した場所でゴミの不法投棄の確認が出来た。

ゴミ不法投棄看板は、たくさん、設置されているが、モラルの問題で看板設置では、防げない部分があり、なお川の管理は県が行っていて単にゴミを回収すれば済む問題でなく、同じ事の繰り返しと思われる。今後、看板の設置でなく、夜間に投棄されているケースを想定して、蛍光の横断幕の設置も考慮する必要があると思う。

全地区に、設置するのでなく、ゴミ捨てを抑止して、まず河川の景観が良くなるように重点的に、河川に横断幕の設置が有効と思われる。

観光地として、河川がきれいだと、観光のお客様の印象がよくなる。調査後、会議を開催し意見交換を行い、上記の意見等があり、今後の施作の参考にする事が話し合われました。

平成27年7月27日(月)「ゆっつらくん健康体操」振付講習会が公民館3階で行

われました。



「ゆっつら君健康体操」を制作された佐賀女子短期大学 田口教授と小川教授、竹中事務局長の3名より指導を受けました。

## ちょっといい話のコ

### 心のこもったあいさつは、威力満点

実は子供には学ばせるのではなく、親がまず日々、学ぶことが大切だとつくづく感じたことが、先日ありました。

15年も前に紹介された私の店の新聞記事をみて、ある日、ひとりのご老人が来店くださいました。お帰りになられる際は店内でお見送りさせていただいたのですが、その方は、ドアを閉めて外からペコりと帽子をとられてお辞儀をされたのです。

私は40年近くこの仕事をしています、あいさつは大事、しないといけない、するべきものと考えてあいさつをしてきましたが、そのお客様の謙虚さに、あー、あんな人になりたい！と心を強く打たれ、「一生懸命にあいさつがしたく」になりました。「するもの」と、「したくなるもの」の違いの大きさに、40年かかって初めて気づかせていただいたのです。

今、毎日、出会う人やお客様に、（あなたに会えてよかったです）と、心の中で思いを込めて、「ありがとうございます」とあいさつをさせていただいております。すると気分がよくなり、とてもうれしい気持ちに自分自身なります。笑いかけてくださる方も多くなりました。今まで俺は、ふんぞり返っていたんだなあと、つくづく、気づかされました。

私はこの体験を、子供に伝えました。子供も十分理解したとみえ、明日からは出会う人ごとに、（会えてよかったですと心を込めて）あいさつを始めると言ってくれました。私にあいさつの大切さを教えてくれたのは、名もない年配の、普通の、しかし、とても謙虚な方でした。この影響は、私から子供や周囲に、さらによい形で伝わることで、人が幸せになることにつながると確信しています。

親が学ばないと伝わらないこともあります。子供を教育するのは、親の学ぶ姿勢がまずありきだということをお願いたく、連絡させていただきました

—インターネット 投稿文より—

子どもたちが夏休みで、地区内で見かけることが多くなっていると思います、見かけたら、できるだけ声をかけてください。地域全体で子供たちを見守っていきたいと思います、よろしくお願ひします。

上記の投稿文は、こころあたたまる話でしたので、紹介させていただきました。子どもは、日常生活の中で親の背中を見て自然に学んでいると思います

10月20日の【大畑誠也氏】講演会仮題「あいさつからすべてが変わる」には是非、たくさんの皆様の参加をお願いします。

嬉野小校区地域コミュニティ運営協議会

事務局長 木寺

電話 0954-42-3961

Eメール ureshino-cc@ktnet.ne.jp